

西洋リンゴの栽培は順調に伸びたものの、国民の食生活に定着するまでは時間がかかったようだ。明治20年代に入って大量に生産されたリンゴを売るために、リンゴの食習慣が広まっていた函館や横浜に出荷し、そこ

本県の商人でリンゴ輸出を初めて手掛けたのは

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

3

に居住する欧米人に食べられてもらう。その延長にリンゴを常食とする国や植民地に輸出するというのが流れた。

リンゴ輸出の先駆的事

例としては、①1894

(明治27)年、函館港から清国に113斤(約68

キ)②翌95年、同港から

清国へ7448斤(約4

469キ)との記録が函

館税関に残されている。

青森リンゴが初めて海外

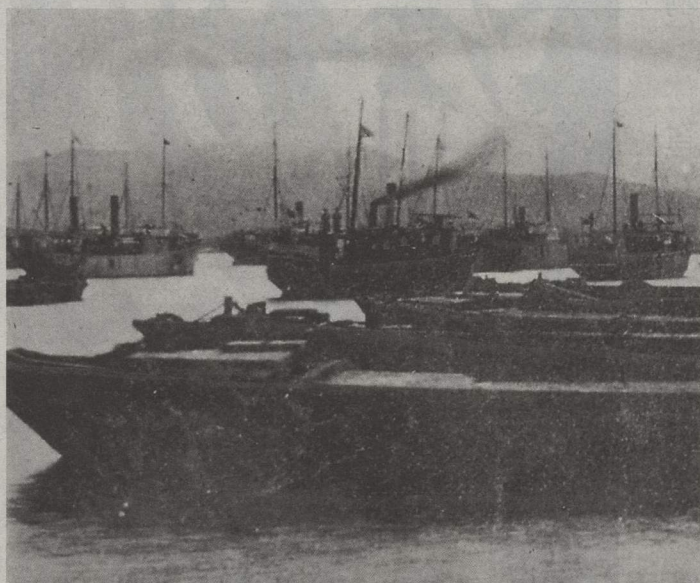
に渡ったようだが、詳細

は分からない。

本県の商人でリンゴ輸

出を初めて手掛けたのは

1899年にスタート



本県商人 ロシアで販売

扱量は定かではない。

堀内に続く輸出の記録

は1903年に出てく

る。弘前市の丸本三立社

(運送店)の調査による

と、県外出荷量2万84

62箱(約1897ト)

のうち、函館とウラジオ

ストクに合わせて846

2箱(約564ト)を送

ったとされている。

次の記録は06年、青森

港からウラジオストクへ

200トが送られたとあ

る。横浜の商人が弘前市

土手町の相坂商店から仕

入れたものだという。こ

明治期の青森港。190

6(明治39)年に特別輸

出港に指定され、同港か

らリンゴが輸出されるよ

うになった

の年の4月に青森港が特別輸出港に指定されていることから、これが同港からの初の輸出と見られている。

同年、弘前市の青果商皆川藤吉が33トのリンゴを上海に送って自ら売り込みに行っている。皆川は4年にわたって上海市場開拓に挑戦し、見事成功。10年には、上海に「皆川洋行」を開店した。

12年、本県の商人で初めてリンゴ輸出を手掛けた堀内喜代治の弟・堀内民次郎が台湾に6・7ト輸出したとある。台湾向け輸出の記録はこれが初めてである。

(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)